



～パリオリンピック 2024 大会で盛り上がった夏休み～

令和6年7月26日から2週間、フランスのパリで世界最高峰のスポーツの祭典オリンピックが開催されました。セーヌ川が舞台となり、夏季オリンピックでは初となる屋外での開会式では、約1万人の選手団を乗せた160隻のボートが6キロにわたってセーヌ川を入場行進しました。開会式を始め、各競技の熱戦にテレビに釘付けになり、連日寝不足になった人も多かったのではないのでしょうか。この日のためにすべてを懸けてきたオリンピック、一人一人に壮絶なドラマがあったことでしょう。観戦している私たちもたくさんの勇気をもらいました。

さて、前号の学校だよりでは、本校3年生がパリオリンピック日本選手団「TEAM JAPAN」の壮行会に参加する旨をお知らせしました。今回は、その様子を報告させていただきます。

令和6年7月5日（金）の壮行会には390名ほどのオリンピックが参加しました。応援リーダーに熱血スポーツキャスターの松岡修三さん、副リーダーにシドニーオリンピックマラソン金メダリストの高橋尚子さん、MCにアナウンサーの平井理央さんが務め、岸田内閣総理大臣の挨拶（録画）やJOC副会長の三屋さんの挨拶もありました。また、アーティストを代表してスキマスイッチの応援ライブもありました。

稲付中学校3年生は、約6,000人の観客の前で、390名ほどのオリンピックに対して応援パフォーマンスで「応援の言葉」を届けました。

<応援の言葉>

清水さん : 「オリンピックに出場する選手の皆さんが！」
1組全員 : 「何度も挑戦する姿に！」
小池さん : 「仲間を信じ、自分を信じて、」
4組全員 : 「すべてを乗り越え、躍動する姿に！」
関さん : 「私たちはいつも！」
2組全員 : 「一歩、踏み出す勇気をもらっています！」
中山さん : 「だから今度は！」
3組全員 : 「私たちから勇気を届けます！」
1組・4組 : 「がんばれ！TEAM JAPAN！」
2組・3組 : 「パリオリンピックへ！」
五十嵐さん : 「せーの！」
全員 : 「とどけ！勇気！」



世界最高峰のスポーツの祭典であるオリンピックに関わることができるのは極々一部の人間だと思っていました。「オリンピックはテレビで応援するもの」という固定観念がありました。しかし、縁あってJOCの方から依頼を受けてこのような形でオリンピックに関わることができたことに、ただ、ただ感謝しかありません。目指すことは誰にでもできるかもしれませんが、その切符を手にすることができるのはトップの中のさらにトップのアスリートだけです。どれだけの努力と苦労があったのか、私たち一般人には想像すらできません。想像を絶する練習を積んできたオリンピックに生半可な言葉では届きません。どうすれば応援メッセージが届くのか。心を込めた応援メッセージを声と表情と姿勢と、体全体で必死に届けました。正直、どれだけの気持ちが届いたかはわかりません。しかし、あの一瞬、稲付中学校3年生はまさに一つとなり自分たちのできる最高の応援パフォーマンスをしました。みんなのためにこんなに一生懸命応援したことなんて今までなかったかもしれません。この経験こそが今回得た大きな、大きな宝物だと思っています。

女子柔道48キロ級で金メダルを獲得した角田夏樹選手は52キロ級から階級を一つ下げての出場でした。優勝後のインタビューで「一歩踏み出す勇気をもてて…」というコメントがありました。このコメントを聞いたときひよっとしたら私たちの応援メッセージが届いたのかなとすごく嬉しく感じました。オリンピックの皆さん、たくさんの勇気をくれてありがとうございました。今後のご活躍を心から祈念いたします。

～本校の卒業生7名がパリオリンピックに出場しました～

<卓球>

- ・木原 美悠選手
(リザーブで出場)
- ・平野 美宇選手
(女子団体戦銀メダル、個人ベスト8)
- ・張本 智和選手
(男子団体戦準決勝進出、個人ベスト8)

<レスリング>

- ・須崎 優衣選手
(女子50キログラム級銅メダル)
- ・鏡 優翔選手
(女子76キログラム級金メダル)

<フェンシング>

- ・高嶋 理沙選手
(女子サーブル団体戦銅メダル)
- ・敷根 崇裕選手
(男子フルーレ団体戦金メダル)

※先輩方、本当にお疲れ様でした。そして、勇気をありがとうございました！

～そして、今、パリパラリンピック2024大会が熱い！～

令和6年8月28日から世界最高峰の障害者スポーツ大会であるパリパラリンピック2024大会が開催されています。こちらの大会はコンコルド広場にて開会式が行われました。旗手の石山大輝選手と西田杏選手が日本選手団を先導しました。オリンピックに続きパラリンピアンがフランスパリにて熱い戦いを繰り広げています。このパラリンピアンの中にも本校の卒業生がいます。車いすラグビーの小川仁士選手です。7月25日(木)には西が丘小学校体育館にて小川仁士選手とパラ陸上に出場する澤田優蘭選手(西が丘地区出身)の壮行会が行われました。壮行会に先立ち、稲付中学校全生徒が心を込めて応援メッセージを書きました。壮行会当日は、校長、櫻井教諭(櫻井先生は小川選手がバレーボール部時代の顧問をしていました)、2年生女子6名で参加してきました。6名の生徒から直接二人のパラリンピアンに応援メッセージ渡しました。日本を代表するアスリート、間近でお会いすると醸し出すオーラがすごくとてもカッコ良かったです。小川選手、澤田選手にはぜひ、ご自身が納得のいく最高のパフォーマンスができることを祈念しております。

<小川 仁士選手>

<澤田 優蘭選手>



～1学年 岩井臨海学園～

令和6年7月28日(日)から7月30日(火)まで岩井臨海学園に行ってきました。

今年度のスローガンは「主体性を尊重し、全力で楽しみ絆を深めよう」でした。このスローガンのとおり、学園での生活は室長を中心にみんなで時間を意識し、自分たちで今何をすべきか考えて行動していました。また、海岸での活動では、初めて経験するライフセービングプログラムにチャレンジしました。ライフジャケットの着用、ニッパーボード、ボディサーフィン、レスキューボード、バックストローク、ウェーディングリレー、心肺蘇生法等、「とにかくやってみよう」を合い言葉にみんな積極的に取り組んでいました。また、夕食後の活動では、暑中お見舞い書きやじゃんけんゲームのレクリエーションで大いに盛り上がりました。大きな体調不良者が出ることなく、元気に3日間過ごすことができました。

<心肺蘇生法デモンストレーション>

<人気プログラムのニッパーボード>

